

令和2年度

帯広市文化賞

帯広市文化奨励賞

帯広市文化活動功労賞

令和2年11月3日

帯広市教育委員会

帯 広 市 文 化 賞



かわち くに お かわち
河内 邦夫 (クニ 河内) (80 歳)

《略 歴》

昭和42年	「ザ・ハプニングス・フォー」としてデビュー
昭和47年	ヤマハ主催 日本歌謡祭 '72 作曲家グランプリ受賞
昭和52年	作曲家、編曲家としての実績を積み、「有限会社クニ」を設立
平成6年	埼玉県より十勝管内清水町へ移住
平成12~15年	市民創作野外劇「十勝野はるか」サウンドディレクター
平成13年	帯広市へ転入
平成14年	とかち国際現代アート展「デメーテル」特別企画にて演奏
平成17年~	「愛の国さくらまつり」イメージソング作曲、毎年出演
平成18年	市内小学校にてワークショップ開催 (アーティスト・イン・スクール実行委員会主催)
平成24年	帯広市開拓 130 年・市制施行 80 年記念式典にて小中学生と共演
平成25年~	帯広市文化スポーツ振興財団主催「0~5歳のためのプチコンサート」出演
令和2年	YouTube でワークショップ「メロディキッズの音楽ワーク」を配信

《受賞理由》

氏は、音楽制作や演奏活動に長年勤しみ、様々なアーティストに楽曲を提供するほか、800曲にのぼるCM曲を手掛けるなど、プロミュージシャンとして優れた功績を挙げるとともに、十勝・帯広に移住後は、地域を題材にした楽曲の制作や、地元コンサートへの出演を通じ、地域の音楽文化の振興に多大な貢献をしてこられました。また、多くの場所でワークショップを開催するほか、学校や保育園等の様々な行事に出演するなど、地域活動にも積極的に取り組んでおり、気さくに人々と交わりながら、世代や立場を超えて音楽の輪を広げる氏の活動やその謙虚な人柄は、多くの尊敬を集めています。

このような氏の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与し、特に功労が顕著であると認められることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するものです。

帯広市文化奨励賞



くろだ まさふみ
黒田 勝史 (48歳)

《略 歴》	
平成9年	YOSAKOI ソーランチーム「Excla!matioN」結成
平成10年～	第7回 YOSAKOI ソーラン祭りにて、初参加・初入賞（以後、平成14年を除き毎年参加、数々の賞を受賞）
平成13年	第10回 YOSAKOI ソーラン祭りにて、十勝勢初のファイナル進出
平成14年	帯広平原まつり「夢降夜」の企画立ち上げに参画
平成14年	帯広市開拓120年・市制施行70年記念協賛事業 とかち市民劇「十勝伝説」舞台監督助手
平成15年～	おびひろ市民ミュージカル実行委員会設立 副実行委員長
平成17年、 22年、29年	北海道主催「北の元気舞台」におびひろ市民ミュージカル作品 招へい、札幌市にて上演
平成19年	十勝圏ファミリーミュージカル「小公子」舞台監督
平成23年～	帯広市民オペラ 舞台監督助手
平成27年～	帯広市民劇場運営委員会運営委員
平成29年～	帯広交響楽団理事
平成30年	第4回帯広市民バレエ「コッペリア」舞台スタッフとして「舞台人の会」を結成し協力

《受賞理由》

氏は、YOSAKOI ソーランチーム「Excla!matioN」の設立をはじめ、「おびひろ市民ミュージカル」を立上げ、演出および副実行委員長を担うほか、帯広平原まつり「夢降夜」の企画など、文化活動からまちづくりに関わる活動に至るまで、幅広い分野で優れた芸術性とリーダーシップを発揮し、YOSAKOI ソーラン祭りでは「Excla!matioN」が十勝勢で唯一ファイナル、セミファイナルコンテストに進出するなど、数々の新しい取り組みを成功に導き、不断の努力で継続させてきました。また、氏のなにごとにも責任感を持ち力強く邁進する人柄は、幅広い世代から敬慕されており、後進の指導・育成にも熱心に取り組んでおられます。

このように氏は、帯広市の地域文化振興の向上推進に真摯に活動されており、文化的技能が特に優秀であると認められることから、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するものです。

帯広市文化奨励賞



と か ち に ん ぎ ょ う げ き き ょ う ぎ かい
十勝人形劇協議会
(設立 41 年)

《略 歴》

昭和54年	十勝人形劇サークル連絡協議会として発足・旗揚公演
昭和54年～	毎年「十勝人形劇フェスティバル」を開催
昭和58年	「帯広 16 万人の個展」にて人形展示と公演を実施
平成 3 年	十勝人形劇協議会と名称変更
平成 8 年	人形劇学習会「人形の動かし方」開催
平成13年	帯広市児童会館にて定期合同公演開催（現 きらきら人形劇場）
平成16年	帯広市児童会館にて「人形制作講習会」開催
平成20年	帯広市児童会館にて「人形劇講座」開催
令和元年	十勝人形劇協議会設立 40 周年

《受賞理由》

十勝人形劇協議会は、昭和 54 年に十勝管内の人形劇サークルが集合する形で発足し、以来「十勝人形劇フェスティバル」を毎年開催するほか、様々な公演や講習会を開き、人形劇サークル間の親睦交流を深めるとともに、人形劇の普及と技術研鑽に勤しんできました。所属する人形劇団が賞を受賞するなど、優れた技能は高い評価を得ております。また、帯広市児童会館において定期的に公演活動を行っており、気軽に人形劇を観覧できる場として多くの来場者に人形劇の楽しさを伝えており、観劇していた子どもたちがやがて演者となるなど、世代から世代へと活動が受け継がれる礎となっています。

このように十勝人形劇協議会は、地域の人形劇文化の向上推進に真摯に活動されており、文化的技能が特に優秀であると認められることから、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するものです。

帯広市文化奨励賞



と かつち
十勝やまなみ合唱団
(設立 48 年)

がっしょうだん

《略 歴》

昭和47年	芽室町にて女声のみ 10 名の「やまなみコーラス」を発足
昭和55年	混声合唱団となり、名称を「やまなみ合唱団」と変更
平成元年	帯広市民文化ホール柿落し公演「天地創造」出演
平成3年	第44回全日本合唱コンクール北海道支部大会 奨励賞受賞
平成16年	名称を「十勝やまなみ合唱団」に変更、活動拠点を帯広市へ移転
平成17年	第12回札幌ヴォーカルアンサンブルコンテスト 金賞受賞
平成19年	東京混声合唱団帯広特別演奏会に共演 十勝文化団体協議会 文化奨励賞受賞
平成29年	古楽器によるヘンデル「メサイア」帯広演奏会開催

《受賞理由》

十勝やまなみ合唱団は、昭和 47 年に発足して以来、歴代の優れた指揮者の指導のもと、道内外の優秀な音楽家を招へいた演奏会や、宗教曲を扱った大規模な市民参加の合唱演奏会を開催し、今日に至るまで合唱の素晴らしさを伝え、地域の合唱文化の向上発展に寄与されてこられました。

また、指揮者の確かな音楽的背景に裏付けされた指導により高い芸術性を追求した演奏は、斯界から高い評価を得ており、平成 17 年には「第 12 回札幌ヴォーカルアンサンブルコンテスト」で金賞を受賞、平成 19 年には十勝文化団体協議会の文化奨励賞を受賞しています。

このように十勝やまなみ合唱団は、地域の合唱文化の向上推進に真摯に活動されており、文化的技能が特に優秀であると認められることから、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するものです。

帯広市文化活動功労賞



ちばよしお&
ノーチェ・アミーゴ
(設立 54 年)

《略歴》

昭和41年	帯広協会病院に勤務する職員バンドとして設立
昭和44年	職場外に団員を求め、社会人バンドとして再結成
昭和55年	国際姉妹都市スワード市にて国際親善演奏会出演
平成元年	帯広市民文化ホール柿落とし記念公演出演
平成5年	NPO 法人十勝文化会議 十勝文化奨励賞受賞
平成7年	阪神淡路大震災チャリティコンサート
平成16年	「ビッグバンドフェスティバル in さっぽろ」出演
平成21年	ペドロ&カプリシャスと帯広市民文化ホールにて共演
平成29年	50周年記念コンサート

《受賞理由》

ちばよしお&ノーチェ・アミーゴは、昭和41年の設立以来、ジャズラテン音楽の社会人ビッグバンドとして十勝・帯広を中心に活動し、歴史あるビッグバンドとして幅広く認知され、地域の音楽文化に大きな功績を残してきました。本市姉妹都市であるアラスカ州スワード市で演奏を披露するなど、多岐にわたるその活動は、斯界から高い評価を得ており、平成5年にはNPO法人十勝文化会議の文化奨励賞を受賞しています。また、現在もなお精力的に演奏活動を続けられ、若い世代に演奏機会を提供し、育成の場としての役割も果たされるなど、地域の軽音楽文化の振興に尽力されています。

ちばよしお&ノーチェ・アミーゴのこのような活動は、地域の軽音楽文化の向上推進へひたむきな努力を続け、その活動と功績が顕著であると認められることから、帯広市文化活動功労賞を贈り顕彰するものです。